

心を寄せて～難民とともに～

— はじめに

2023年12月、日本も共同議長国を務めた「第2回グローバル難民フォーラム」には、世界中から多くの参加者が一堂に会し、それぞれの難民支援の取り組みを共有しました。日本からも様々なセクターから代表者が集い、「宣言」を行いました。そのなかでも全日本仏教会様には、日本の伝統仏教界の力を結集し、難民支援活動の推進や連帯を目指し、世界平和に向けて共に行動していくことを以下のように宣言いただきました。



「第2回グローバル難民フォーラム」の閉幕を参加者と祝うフィリッポ・グランディ国連難民高等弁務官 © UNHCR/Will Swanson

「日本の仏教界における難民支援の新たな取り組み」

【誓約内容】

日本には約75000の伝統仏教寺院が存在し、信仰者同士の強固な繋がりがあります。全日本仏教会は、日本の伝統仏教界における唯一の連合組織として、仏教団体、宗派寺院、信仰者の繋がりの力を結集し、4年後の難民フォーラムに向けて支援活動の推進や連帯を目指します。具体的には、世界難民の日に寺院の建物を青くライトアップし平和への願いを掲げ、また各寺院で募金活動や難民問題について講話を行うなど、地域の中心として情報発信し、広く難民問題と世界平和について考えることに努めます。そして、強制的に移動を余儀なくされた方々の心に寄り添い、自治体、企業、団体と協力し、難民コミュニティ支援の認識を高め、共に行動していくことに取り組みます。



全日本仏教会の皆様とジリアン・トリグス国連難民高等弁務官

グローバル難民フォーラム
について詳しくはこちら→



— UNHCRと難民支援

グローバル難民フォーラムを主催したUNHCR（ユーエヌエイチシーアール）は、国連難民高等弁務官事務所（United Nations High Commissioner for Refugees）の略称で、1950年に設立された国連機関の一つです。紛争や迫害により故郷を追われた難民・国内避難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決へ向けた活動を行っています。また無国籍者への支援にも活動範囲を広げており、現在は、約135か国で約2万人の職員が活動しています。1991年からの10年間、緒方貞子さんが国連難民高等弁務官を務めて活躍されたことでもご存じの方が多くかと思えます。

緊急時においてUNHCRは、いかなるとき、いかなる場所でも、高度に訓練された緊急支援チームを72時間以内に現地に派遣し、逃れてきた人々の命を守るための援助活動を開始します。また、長期化する避難生活において、命と人権を守るために人々に寄り添い支援を続けます。

国連UNHCR協会は、UNHCRの活動を支える日本の公式支援窓口です。UNHCRの活動資金は、各国政府からの任意の拠出金ならびに民間からの寄付金に支えられていますが、もっと広く民間からも支えていこうという機運が世界的に高まり、2000年10月に、民間の公式支援窓口として、特定非営利活動法人 国連UNHCR協会が設立されました。



アフガニスタンの首都カブールで冬の現金支援を待つ避難家族を支えるUNHCRスタッフ © UNHCR/Andrew McConnell

— 世界の難民情勢

紛争や迫害による世界の強制移動の数は、2023年5月末の時点で、1億1千万人以上に達し、11年連続で増加してしまいました。全体数が4000万人以下だった2011年の2倍以上にまで膨れ上がっています。また、難民、国内避難民の41%が18歳未満の子どもであり、若い世代の今と未来が脅かされています。

昨今では、ウクライナやアフガニスタン、ミャンマーなどの人道危機が悪化している一方で、シリアにおいても内戦が長期化しており、先の見えない状況です。2023年はさらに、スーダン、アルメニア、ガザ等の人道危機が加わり、気候変動による強制移動の課題も年々大きなものになってきており、人類の結束と連帯が必要です。

1億840万人 世界で故郷を追われた人



2023年の5月末の時点で1億1千万人以上に

— 6月20日は「世界難民の日」

2000年12月4日、国連総会において毎年6月20日を「世界難民の日」(World Refugee Day)とすることが決議されました。
この日は、従来はOAU(アフリカ統一機構)難民条約の発効を記念する「アフリカ難民の日」(Africa Refugee Day)でした。
難民の保護と支援に対する世界的な関心を高め、UNHCRを含む国連機関やNGOによる活動に理解と支援を深める日にするため、「世界難民の日」として制定されました。
日本各地においても、モニュメントが平和を祈念してUNHCRブルーにライトアップされ、さまざまなイベントやキャンペーンがUNHCRだけではなく、企業・団体・自治体・学校等の皆様の主導によって行われており、伝統仏教界の皆様にもお力添えをいただいております。

— 日本の伝統仏教界のこれまでのご協力

日本の伝統仏教界の皆様方には、長きにわたってUNHCRの難民支援にご協力をいただいております。
世界難民の日には平和を祈って寺院の建造物を青くライトアップしてくださる御寺も年々増えてきており、世界平和に向けての共感の輪が広がっております。また、特に観光客が多く訪れる寺院におかれましては、弊協会の職員が境内の一角をお借りして毎月のご支援のお声かけをさせていただく「国連難民支援キャンペーン」にご協力をいただいております、難民支援の輪が確実に拡大しております。
そして、境内に募金箱を設置していただいたり、基金などからのご寄付のご提供も、世界中の現場でとても大きな力となっております。
特に2022年のウクライナ危機の開始時や2023年のトルコ・シリア大地震においては、さらなるご支援の輪が広がり、多くのご寄付を届けることができました。その他講演会等の多種多様なイベントの開催もとても大きな力となっております。この場をお借りして、職員一同深く御礼申し上げます。

— ご協力のお願いと窓口について



エチオピア難民の家族が避難先のスーダンで提供されたシェルターで生活の再建に挑んでいる
© UNHCR/Andrew McConnell



アフガニスタンのジャララバードにある授業を学校で授業を受ける少女たち。© UNHCR/Oxygen Film Studio (AFG)

長きにわたってご協力をいただくなかで、多くの難民や国内避難民の人々の命と助け、未来をつなぐことができました。
一方で、日々人道危機が拡大しているなかで、より一層の連帯と御力添えが必要となっております。
グローバル難民フォーラムを経て、世界中で難民支援の機運が高まっているなかで、ぜひ今年の世界難民の日をきっかけとして、さらなる支援活動の推進や連帯の輪を広げるべくご協力いただければ幸いです。
例えば以下のような活動

- ・世界難民の日のライトアップ※初めての方は5月15日までにご連絡をお願いします
- ・募金活動やご寄付の実施
- ・国連難民支援キャンペーンのロケーションご提供
- ・世界難民の日について檀家の皆様への講話等広報活動実施
- ・講演会等イベントの実施の際の講演者依頼等
- ・その他の活動のお問い合わせ

につきまして、**弊協会の担当の窓口をお持ちの方は、ひきつづきこちらの窓口をご利用いただければ幸いです。**
特に窓口をお持ちでなく、新たに活動をご検討いただける場合は、**最下部に記載しております天沼まで**お問い合わせください。
皆様方の御力は、世界各地の難民支援の現場で、命と人権、そして未来を守る大きな力になります。仏教界の皆様方の難民支援へのさらなる御力添えを、何卒よろしくお願い申し上げます。



ライトアップされた東寺五重塔 © UNHCR/Atsushi Shibuya



聖観音宗浅草寺のご協力による国連難民支援キャンペーン
©国連UNHCR協会

世界難民の日について
詳しくはこちら⇒



最新情報を「心を寄せて」特設Webページに随時掲載いたしますので、ぜひご覧くださいませ。⇒⇒⇒



<https://www.japanforunhcr.org/news/2024/japanbuddhistfederation>

【お問い合わせ先】

特定非営利活動法人 国連UNHCR協会 広報・啓発事業担当：天沼 耕平

TEL：03-3499-2451 Mobile：070-3869-1763

E-Mail：amanuma@japanforunhcr.org